

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	大阪市立大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	国際発信力育成インターナショナルスクール		
主たる研究科・専攻名	文学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 谷 富夫		

[教育プログラムの概要]

1. 教育研究上の目的と本プログラムの連続性

文学研究科は、「大阪市立大学大学院文学研究科の**人材育成の目標**に関する**内規**」を定め、そのひとつに「国内外の諸都市の教育研究組織や研究者と連携し、**人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を推進する研究者を育成する**」ことを掲げている。地理学や人間行動学の分野では、研究対象・方法論が本来グローバルであるゆえに、英語による研究成果や成果発表が日常化しているため、大学院生の国際発信能力の育成はすでに必須である。また、日本史学などのローカルないしナショナルな研究分野であっても、その研究成果は日本からの発信を世界が求めており、また、そういった国際的競争場面での評価が人社系であっても重視されるようになった。こういった時代の趨勢を鑑みて、文学研究科では、すべての分野の教育において、研究の国際的な競争環境の進化に対応すべく、**研究成果の国際発信能力の育成**に力を注いできた。本教育プログラムは、この国際発信能力の育成のための教育をより充実させることを目的とした取組みである。

2. 実現性、持続可能性

本プログラムは、5年間の**COE活動**で培った**国際研究ネットワーク**を**基盤**にしている。また、平成18年度**外部評価**でも高く評価され、学内的に**承認**され**支援**を受けてきた**インターナショナルスクール集中科目**を核にしている。**実現性、支援終了後の持続可能性**がともに究めて高いプログラムであり、**社会的にもその充実が希求**されている取組みである。

3. 実績と実質化

文学研究科では、**すでに平成15年度以降**、毎年、数名の**海外の優れた研究者を講師**に迎えて**インターナショナルスクール集中科目**(2単位、以下「IS集中科目」)を実施してきている。平成17年度以降は、授業は原則として**英語で行う**ことにしており、3名の外国人研究者がオムニバス形式で担当し、集中講義期間の午前は、講師による講義と討論(同時通訳付)、午後は、後期博士課程**大学院生の英語による口頭発表**を講師がコーディネートしつつ指導助言するという方式が定着している。本プログラムは、この集中科目を中核に据え、それをさらに充実させることにより、**国際発信力育成のための大学院教育の実質化**を図ろうとするものである。

4. プロセス

本プログラムでは、まず、IS集中科目をさらに充実させる。それに加え、前期博士課程向けに毎週開講の「**インターナショナルスクール・アカデミックコミュニケーション演習科目**」(以下「AC演習」)を新設する(実質的な内容は、すでに平成19年7~8月に試行的に実施することになっているが、平成20年度からはそれを正式単位科目に位置づけることを検討している)。AC演習では、学内の教員、国内在住の研究者、招聘外国人講師が交代で授業を受け持つ。教員それぞれの専門分野に関する授業を英語と日本語で行い、受講生に対して、**英語による研究発表、質疑応答、討論などのコミュニケーションの方法**を学ばせる。

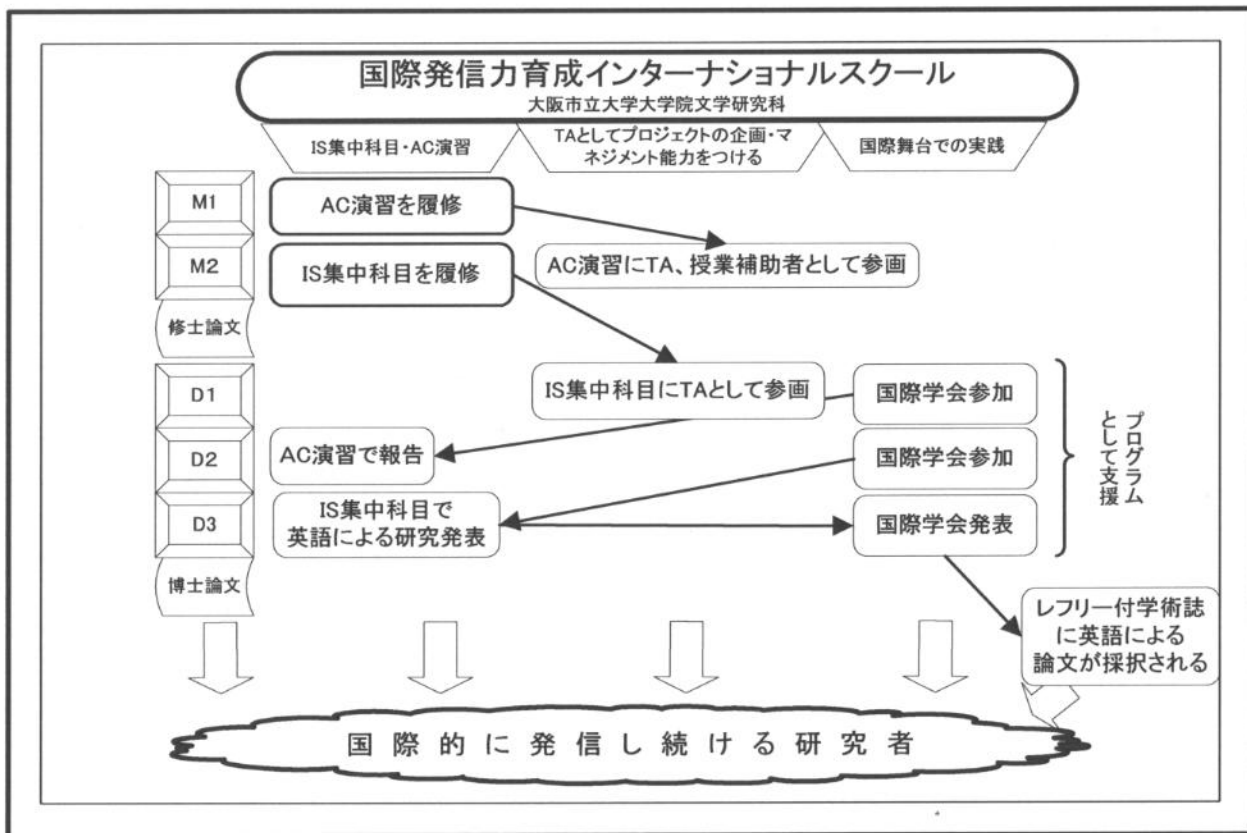
5. 研究成果国際発信能力育成

また、これらの科目と連動して、大学院生が**海外の学会に参加**したり、**発表**したりすることも支援し、大学院生が博士課程修了後に**研究成果を国際的に発信し続けることができる資質**を身につけさせる。

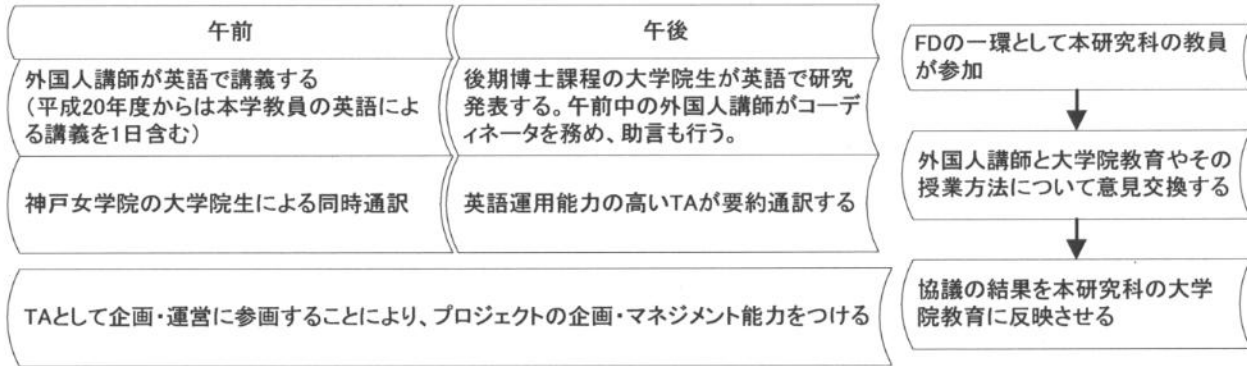
6. 大学院教育におけるFD効果

さらに、本プログラムを**大学院教育のFD**の一環としても位置づけ、IS集中科目、AC演習に本学研究科教員が参加し、それを踏まえて授業方法等研修会を開催する。そこでは、海外研究者からも、日本以外の大学における大学院授業の実態、授業方法の工夫等の情報を得、本学における授業実践充実に活用する。

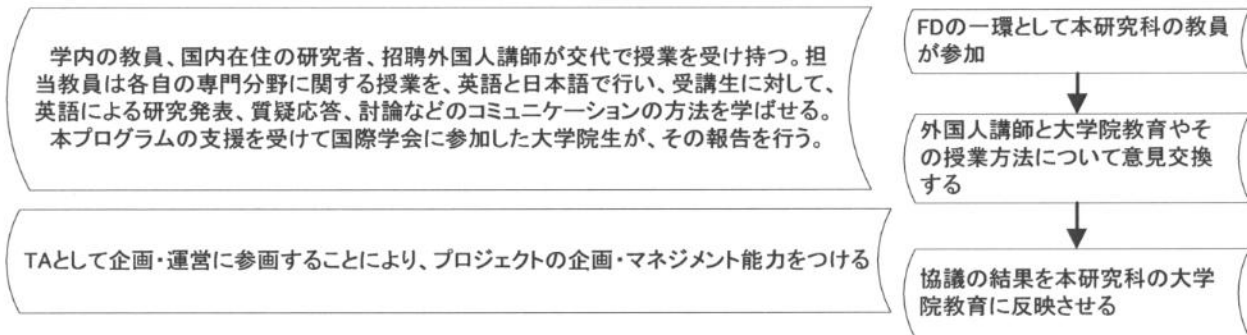
履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください）。



インターナショナルスクール集中科目 (IS集中科目) 「比較文化交流論Ⅱ」「国際都市文化論Ⅱ」「国際都市社会論Ⅱ」 9月に集中講義として開講



インターナショナルスクール・アカデミックコミュニケーション演習 (AC演習) 「比較文化交流論Ⅰ」「国際都市文化論Ⅰ」「国際都市社会論Ⅰ」 週1回開講



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を推進する研究者の育成」を目指し、大学院生の研究成果の国際発信能力の育成のため、海外の優れた研究者の招聘により、英語による「インターナショナルスクール集中科目（IS集中科目）」を配置し、その実質化に向けた着実な成果が見られる点は評価できる。

教育プログラムについては、これらの基盤の下、更なる国際発信能力育成の強化を目指し、IS集中科目の充実に加え、「インターナショナルスクール・アカデミックコミュニケーション演習科目」を新設し、英語による研究発表、コミュニケーション能力の涵養が提案されており、今後の展開が期待される。また、教育プログラムを大学院教育のファカルティ・ディベロップメントの一環として位置付け、海外研究者からの情報提供も含め、授業方法等の改善を行うシステムが取り込まれている点もプログラムの推進に効果が期待される。ただし、教育プログラムによる更なる成果が上げられるよう、海外交流機関の確保と拡充等について検討が望まれる。